

## 本の紹介

大阪市立自然史博物館監修

「見るだけで楽しめる！ニッポンの氷河時代 化石でたどる気候変動」

河出書房新社, 119p, 2023年9月30日発行

1,815円(税込), ISBN978-4-309-22897-6

今回紹介する本は、大阪市立自然史博物館の学芸員さんたちが執筆した氷河時代の気候変動とそれに関連する地理・地質と動植物についての本です。この本は、2016年の7～10月の81日間にわたって同博物館において開催された特別展「氷河時代—化石でたどる日本の気候変動—」の展示内容と、その展示の解説書「氷河時代—気候変動と大阪の自然—」を再編し、それに新たな書き下ろしを加えたものです。本書は、46億年という長い地球の歴史の中でも、私たちが生きている時代、すなわち、約258万年前に始まった氷河時代の気候変動に焦点を当てて、これまでの氷河時代の歴史が、現在私たちが生きている環境にどのように影響を及ぼしているのか、また、今日の私たちの地球はどうしてこのようになっているのかを理解しようというつくりになっています。

本書の章立てを紹介しておきます。

プロローグ：現在も氷河時代！、第1章：あなたの隣の「氷河時代」、第2章：過去の気候変動を探るには、第3章：化石の伝言—氷河時代がやってきた！、第4章：森の古文書—植物から読み解く森の歴史、第5章：虫たちの履歴書—現在日本列島の生物相の成立、第6章：生き物たちのレフュージア、エピローグ：過去を知り、これからを考えるために。

博物館での展示内容と解説書をベースに書かれた本だけに、多少、網羅的な印象はありますが、逆に、写真や図・表、イラストを使って、多面的に氷河時代というものを解説しており、本を読むというよりは、パラパラめくって、気になった写真などに目が留まったら、それに関連する文章を読む、といった読み方になるかと思えます。

ここからは、紹介者が気になった写真や解説文、関心を持ったこと、本書によって考えたことを紹介します。

まずは、読んでいて、「私たちは面白い時代に生きている、つまり、氷期と間氷期が繰り返すことにより、寒い時代の動植物と暖かい時代の動植物が混在して共生している、面白い時代に生きているんだなあ」と感じた部分です。83ページに「コバナノワレモコウ」という白いモコモコした花からモヤシのようなツンツンしたものがでている写真に目が留まりました。なんだか面白くて、少し可愛らしい形態に目が留まりました。近畿地方の水田のあぜなどに生えているらしいのですが、関西在住約30年になる紹介者は見たことはありません。解説によると、この植物は寒い時代の生き残りだそうで、温かくなった現在の環境の中で、かろうじて生存しやすい田んぼなどの湿った土地で生きながらえているらしいです。白くて繊細なサギソウも同様の植物だそうです。今度、探してみたいと思います。

氷河時代とは、大きな氷河が存在する時代のことで、もちろん、現在は南極大陸やグリーンランドに大きな氷河があり、氷河時代にあたりますが、地球の歴史においてはむしろ無氷河時代の方が長く、氷河時代の方が珍しいと言えます。この本は氷河時代における気候変動を扱っていますが、気候変動のモードは氷河時代と無氷河時代では異なっていたでしょうし、約258万年前に始まった第四紀における氷河時代においてさえも、氷期が出現する周期は変化しています。

化石燃料の消費による二酸化炭素濃度の上昇に伴う地球温暖化が社会問題として認識されて久しい。そして、地球温暖化による人間社会への影響への懸念は益々大きくなっています。かつて地球は全球が凍結したこともあるし、氷河時代から無氷河時代への移行、あるいは、無氷河時代から氷河時代への移行はかなりドラマティックに起こるようです。地球が様々な環境条件において、様々な環境要因の変化にどのように反応するのかについて、地道な研究が求められます。

本書は気候変動に関する教材作成に活用いただけると思っています。

(大阪教育大学 廣木義久)

2023.10.9 受付

2023.11.5 学会ニュースレーター公開

2023.11.3 学会ホームページ公開